



内閣府特命担当大臣表彰 優良賞

経済産業省推薦

とく しゆ い りょう

株式会社 特殊衣料

(北海道札幌市)

てんかんを抱える子ども、障害者等の頭部を守るヘルメットに代わって、普通の帽子とほぼ外観が同じ頭部保護帽「アボネット」を始め、福祉用具の開発、製造を行い、障害者、高齢者等の日常生活の質の向上に貢献。

同社は、創業以来30年間、病院・福祉施設に特化して行ってきたリネンサプライや清掃業務を通じて、看護・介護の現場を目の当たりにし、看護・介護する人々から、「こんなことできないか?」「こんなのあったらいいな」という相談を受けるようになっていた。また、同社は障害者雇用を積極的に進めてきており、障害者やその家族と常に接することで、そこでも様々なニーズや課題を見出していた。そのような背景のもと、看護・介護される人、看護・介護する人、障害者やその家

族など、看護・介護・障害者に関わる全ての人々が快適に過ごせるように、福祉用具の開発・製造・販売を手掛けるに至っている。

従来、安全を追求した無骨な保護帽のみが世間では製品化されていたが、同社の「アボネット」は、障害者や高齢者であっても出来るだけ普通に生活したい、お洒落に豊かな生活をしたい、というニーズに応えるために開発された保護帽である。公設試等に依頼し安全性試験を行い保護帽としての性能も十分確保したものになっている。



作業場



保護帽「アボネット」

内閣府特命担当大臣表彰 優良賞

経済産業省推薦



株式会社 日立製作所 ユニバーサルデザイン出前授業 プロジェクトチーム

(東京都千代田区)

モノづくりの大切さと、ユニバーサルデザインの考え方を社会に広めることを目的に、子どもを対象としたユニバーサルデザインの出前授業活動をボランティアで行い、その普及に尽力。

ユニバーサルデザインはモノづくりだけでなく、社会づくりにおいて大切な考え方であるが、広く一般にまで十分浸透しているとはまだいい難い状況にある中で、日立製作所では創業以来、人々の暮らしを支える社会性の高い事業に取り組んでおり、さまざまな分野、ユーザー向けのモノづくりを通じて、ユニバーサルデザインに関する豊富な知識や技術、およびそれらを有する多くの人材を育ってきた。そこで、これらの豊富な社内リソースを社会に還元し、モノづくりの大切さと、

ユニバーサルデザインの考え方を社会に広めることを目的に、次世代を担う子どもたちを対象としたユニバーサルデザインの出前授業を、2005年春より開始した。

授業では、ユニバーサルデザインの学習を通じて、モノづくりと思いやりの大切さを伝えることを最大の目的としている。そこで、知識を詰め込むだけではなく、自ら気づき、考え方行動するきっかけを与える体験型の要素を多く取り入れている。



UDの考え方を説明



グループワーク

内閣府特命担当大臣表彰 優良賞

経済産業省推薦



とう きょう でん りょく

東京電力 株式会社

(東京都千代田区)

IH(Induction Heating(電磁誘導加熱)) クッキングヒーターについて、誰にでも、使いやすい、ユニバーサルデザインの視点による製品の改良をメーカーに促し、高齢者や障害者等のより安全・安心な調理の実現に尽力。

現在では、IHクッキングヒーターは安心で便利な調理器として広く認知されており、全国の世帯普及率は13%を上回っている(2010年3月現在、東京電力調べ)。普及率がまだ一ヶタ台であった6年前、目の不自由なユーザーからの「IHは視覚障害者には使いにくい」との声に、東京電力は、鍋の置く位置を確認できる補助具を作成して対応した。これを機に、電力会社の立場から、(財)共用品推進機構をはじめとする福祉団体や障害者団体などの協力を得て調査・評価(調査実

態調査と実機を使ってのモニタリング)を実施。IHクッキングヒーターのユーザビリティ基準を策定し、高齢者や障害者の視点も商品設計に反映するよう各メーカーの商品開発者に直接働きかけ、各社IHの製品改良に貢献。製品改良というハード面にとどまらず、対象者の特性にあわせた説明方法の標準化とマニュアルの作成、地方自治体や公的機関の福祉施設での説明会の実施、他電力会社へのナレッジの提供などの取り組みを行い、高齢者・障害者から高い評価を得た。



高齢者・障害者を対象にしたIH体験会



ユーザビリティを最優先に設計されたIHクッキングヒーター
(2010年秋発売)